



よろんちょう 議会だより

第134号

2020年／令和2年1月23日

発行 与論町議会
編集 広報常任委員会
〒891-9301
鹿児島県大島郡与論町茶花1418番地1
TEL 0997(97)3201
FAX 0997(97)4196



令和元年12月に完成した与論町役場新庁舎

議 会 報 告 会

(P3 ~ P4)

**12月
定例会**

所 管 事 務 調 査 報 告

(P 5)

一般質問

8人が登壇!町政を問う

(P6 ~ P13)

一般会計予算は

54億6684万円 (1791万円を追加)

主な補正

老人福祉費	197万円
介護保険事業費	△ 562万円
海上貨物輸送環境改善事業費	2231万円
商工観光振興費	114万円
I C T 環境整備費	△ 1518万円

令和元年第四回定例会を十二月六日から十二月十二日までの七日間の日程で開いた。

十二月六日は、諸般の報告の後一般質問があり、8名の議員が登壇し町政全般について議論を交わした。

その後、議案審議が行われ、条例8件、その他2件、補正予算5件を原案の通り可決、懸案だった沖永良部と論地区広域事務組合規約の一部を改正する規約も賛成多数で可決した。また、与論町教育委員会委員に富敏紀氏を任命することに同意した。

十二月十二日は、最終本会議を開き、条例1件を原案可決、所管事務調査報告が行われ、議員派遣の件と閉会中の継続審査・調査について決定し会議を閉じた。

一般会計補正予算

会計名	補正前	補正額	計
一般会計	54億4893万円	1791万円	54億6684万円

特別会計補正予算

会計名	補正前	補正額	計
国民健康保険特別会計	8億4825万円	△ 1945万円	8億2880万円
後期高齢者医療特別会計	7026万円	243万円	7270万円
介護保険特別会計	7億4534万円	△ 3465万円	7億1069万円

※ 補正予算の数字については、四捨五入のため必ずしも合計は一致しない。

議会報告会

去る11月5日、地域福祉センターにおいて、第10回議会報告会を開催した。

内容としては平成30年度決算審査の審査状況と意見の申入れについての説明、平成30年度の事業実施箇所及び令和元年度の事業予定箇所についての説明、採択した陳情についての説明、第27回沖永良部・与論地区議会議員大会及び第62回奄美群島市町村議会議員大会での要望事項についての説明を行った。

その後、質疑応答の他、参加者から貴重な意見、要望、提言等があったが、紙面の都合で全部を記載できなかったことを了承願いたい。

質疑応答

質問 給水停止措置、慎重に対応とあるが、具体的に説明を。

答弁 水道料金の未払い金に対する措置で、水道法15条に未払いの場合は給水停止をすることができるとなっており、その他、督促、どうしても支払いが出来ない場合は法的な措置となる。公の職務を遂行する上では法に則って粛々と進め、且つ、慎重にすべきということである。

質問 町税の不納欠損53万円をどのような理由で処分したのか。

答弁 地方税法に基づいているが、行政の答弁として、差し押さえの意向はあったが、調査を行った結果、差し押さえできる物件がなく、生活貧困者であったという状況でやむなく不納欠損処分に至ったということであった。

質問 ドクターヘリの搬送先について懸念の

声があるが、搬送先はどのように決めるのか。
答弁 奄美ドクターヘリは、基本的に県立大島病院に搬送するのが原則となっている。沖縄への搬送希望が圧倒的に多いのだが、原則に従って奄美への搬送が多いのが実情である。

去る9月に、与論町長名で「ドクターヘリ搬送先決定における患者家族の意向反映に対する配慮のお願い」に関する要望書を、久留副町長と田畑町民福祉課長が直接出向き、鹿児島県立大島病院長に要望したところであり、議会からも県に要請する予定である。

質問 前浜の船揚場は撤去されるということだが、その他に使われていない斜路とか、崩れて波にさらわれそう

な斜路がいつぱいある。そういったところの撤去整備計画はあるか。なければ、計画して撤去して欲しい。



撤去を待つ前浜の船揚場

答弁 麦屋漁港や茶花漁港、江ヶ島漁港もある。他の危険な斜路は順次整理していく計画であり、執行部も議会も同じ意見である。

質問 人口減少が進む中、子育て支援や人材育成が大事なと思うが、どのような方策や計画があるのか。

答弁 出産時の支援として島外出産支援事業があり、交通費や宿泊費の助成がある。子育て支援制度では第1子10万円、第2子20万円、第3子50万円、4子以降10万円ずつ加算し出産時と成長の過程に分けて支給する。その他は町民福祉課の窓口で制度説明のパンフレットを参照していただきたい。

質問 野犬が増えていくから、放置した人がいるから、増えていると思われるが、野犬を減らすためにどのような対策を行っているか。



野犬捕獲用の檻

答弁 環境課で檻を設置して対応しているがあまり効果がない。町全体で多頭飼育や、飼育放棄などが野犬化に繋がることへの意識と情報を共有しながら、対策を講じていくことが必要である。

質問 与論港における安心安全な海上輸送のための港湾整備について、今後議会として提案するのであればある程度具体的に説得できる案で交渉しないと難しいのではないかと。 **答弁** 今、県としては、江ヶ島棧橋の一部を改修し、全部使用出来る様にします。それと、入口の誘導灯が台風で破損し侵入が難しくなっているのを、誘導灯を整備することを県は検討している。供利港の整備については、今の岸壁を頑丈なものにして頂きたいというのが

我々の要望であり、町長と議長が国の方へ陳情を行っているところである。



江ヶ島棧橋

意見・要望・提言

◎ 議会だよりへの記事の掲載は、公平・公正に配慮してほしい。

◎ ある医療機関から、今後沖縄の専門病院に対して紹介状を書くことが出来ない恐れがあるということがある。与論の医療全般に大きな問題になるのではないかと思うので、議会の方で調査をお願いしたい。

いしたい。

◎ 茶花のウブインジユの改修工事で茶花地区排水路整備工事・暗きよ整備工事2000万円、ウブインジユ地区擁壁改修工事1450万円が計上されているが、これは銀座通り、産業道路の冠水対策でもあり、これで解決する問題では無いと思う。ウブインジユの水位、海の潮位と飛行場の雨量計の3つを連動した形で1年・2年データを必要があると考える。



ウブインジユ

◎ そのデータ集積に基づいた土木事業とは別に新たな事業、緊急時に対する排水対策等の調査事業を進めてもらいたい。

◎ 船揚場の整備については、壊れたまま放置されている箇所について船揚場の組合、漁業者、利用者並びに漁業協同組合との話し合いを建設課、担当課への指導、働きかけをして欲しい。

◎ 第6次与論町振興計画の中にスマートアイランド構想を取り入れることができないか検討して欲しい。

◎ 供利港、茶花港ともに東風が強いときには接岸が困難である。そもそも、設計当初から方向が悪かったのではと言われているが、機会があったら大きな

形で計画を練り直す必要があるのでは。



与論港 (供利港)

以上、出席者は少なかったが、貴重な意見・提言等をいただいた。これらのことの解決に向けて、今後の議会活動の中で、積極的に取り組んでいきたい。



トピックス

※ 令和元年11月13日にNHKホールで開催された全国町村議会議長会創立70周年記念式典で、永年功労者表彰(町村議会議員として30年以上在職のもの)があり、本町から野口靖夫議員、麓才良元議員が表彰されたので報告いたします。

※ また、令和元年10月31日～11月1日にメルクホールで開催された令和元年度町村監査功労者表彰式・町村監査委員全国研修会で、本町の大田英勝監査委員が表彰(町村監査委員として7年以上在籍し功労のあったもの)された。

所管事務調査報告 環境経済建設常任委員会

当委員会は、各種団体との意見交換会や議会報告会等で、課題や要望として出された、特産品開発、養殖漁業、公園景観・植栽事業、若者定住促進対策等に関する調査を令和元年5月9日から10日にかけて行った。場所は、

外海離島で本町と類似している大分県姫島村である。

大分県漁協姫島支店

組合員数130人、職員20人で運営。一本釣り、たて網流し網、はえ縄が中心で、平成31年度は離島漁業再生支援交付金事業でヒラメ、赤ウニ、カサゴ、子持ちダコ等種苗放流する予定であり、禁漁期間を設け、資源管理の徹底を図っている。

特産品「姫島車えび」



姫島水産加工センター

村内に三箇所、塩田跡地に海水を引入れ、稚魚エビを放養し、3か月程度で出荷される。隣接地の加工センターで、瞬間真空パックで全国発送され、村の沿岸漁業と並ぶ基幹産業であり、平成30年度水揚高は7.3トン。販売額4627万円、車えびの料理で観光客に喜ばれている。養殖場は、第三セクター方式で、姫島村車えび養殖(株)を設

立し、若者定住促進策の一翼を担う。また、周防灘の豊かな漁場が育んだマコガレイ、カサゴ、ヒラメ、アワビ、赤ウニ等の海産物も有名である。

女性起業家の活動

起業家グループが運営する「姫島かなんど工房」は、わかめ、ノンオイルドレッシング等を加工販売し、平成30年度販売額1390万円である。

アサギマダラを守る会

「渡り蝶日本一の飛来地」を目標に取り組みボランティア組織の活動を調査。アサギマダラを守る会は、現在22人。アサギマダラ蝶を通じて姫島の自然環境や生態系を子供たちが学ぶ事で、愛郷心を育み、中学校を卒業して島外に出ても、故郷の自然を思い出しても

らいたいとの思いから始めた。



アサギマダラのPR旗

主な活動は、①海岸に自生する植物「スナピキソウ(アサギマダラの食草)」の保護。②飛来地案内看板の設置。③生態等や移動情報の提供等のPR活動。④小学生へのマーカーキング指導等であり、蝶を通して、自然保護、環境保全の大切さを知り、多様性を認め合う行動の中に教育の原点があり、観光振興に繋がるキーワードが見えてきた。

村役場訪問

5月10日は、役場で若者定住促進対策の説明を受けた。全国的にも有名になったワークシェアリングは、昭和40年代前半、過疎化、人口減少対策として、若者を村に残すため、村民の決断で始まった。島外民間企業の進出は難しく、活性化には地場産業の育成と若者雇用の場の確保が課題で、その一つが車えび養殖事業であり、役場の職員雇用施策であった。職員は、平成31年4月1日現在201人で、約7割が本庁以外のフェリー・診療所・高齢者生活福祉センター・地域包括支援センター等で就労している。平成29年度から「姫島ITアイランド構想」を提唱し、企業誘致活動を積極的に展開し、令和元年度

観光施策

までに2社が営業を開始している。姫島灯台、七不思議巡り(お姫様にまつわる数多くの言い伝え)、姫島ブルーライン、西村記念公園等を視察した。どの公園、景勝地もトイレが完備され、徹底した清掃で清潔感が感じられる。ロケーションにマッチした植栽がなされ、癒しの空間が観光客を迎えるよううで感動させられた。

これらの調査を通しての結論は、姫島も本町も外海離島で、地震や台風の常襲地帯と条件不利地域であり、創造力と実行力を兼ね備えたリーダーのもと住民やITターンUターン者が、「いかに活動できる場所を創造できるか」に掛かっていると

一般質問

8人の議員が登壇、町政を問う

生分解性マルチの利用促進を図れ

町長 関係機関と連携し普及に取り組み。



遠山勝也議員

**環境保全と
農作業効率向上**

遠山議員 プラスチックによる海洋汚染が世界的な問題になっていく中で、本町の環境保全と農作業効率向上が同時に実現可能な「生分解性マルチの利用」を推進していく必要があると思うが、どのように取り組んでいくか。

町長 生分解性マルチは、時間経過や劣化により表面の開裂が見られるなど、ビニール製

品より耐久性が劣る面もあるが、ほ場にて自然分解することから環境に優しい資材として注目を浴びており、先進地である沖永良部島においては、さといも収穫後のフィルム回収作業を省けることで評価も高く、本町においても今後の省力化資材として普及が期待されている。



生分解性マルチのほ場

また、最近、環境汚染問題となつているマイクロプラスチックの発生を抑制するためにも、自然界に残存させない資材である生分解性マルチの利用は、環境保全型農業の面から有用であり、ほ場における実証を重ね、取り扱い方法や利用しやすい環境づくりについて関係機関と連携し普及に向け取り組んでいく。

**本町農産物等の
人手不足解消のための
空き家情報の発信**

遠山議員 外国人技能実習生に限らず、島外からの雇用も推進していく必要がある中で、本町のアパート等

の空き家情報を島外でキャッチできないとの声があるが、季節による見通しを含めた情報をネットに掲載する等、移住に興味を持つ島外の人へのアピールが必要だと考えるがどのように取り組んでいるか。

町長 現在、行政が保有するアパート等の空き家情報は、空き家バンク、移住定住住宅（サンセット江ケ島）、公営住宅がある。空き家バンクについては、与論町ホームページに物件情報や登録制度について掲載しているが、登録物件の情報が不足している状況である。公営住宅やサンセット江ケ島は、空き室が生

じた際に入居者募集をホームページに掲載している。

現状、空き家等の物件が殆どなく、島外からの問い合わせは島内不動産業者を紹介している。



サンセット江ケ島

本町における慢性的な住宅不足は、雇用問題を始め様々な分野の障壁となつているので、公営住宅の整備の推進、空き家等の改修助成制度の活用促進をさらに図るなど対策を講じていきたい。併せて、空き家等情報の検索が島外移住希望者等に容易に提供できるようにホームページのリニューアルも検討する。

精神疾患への対応策をどう講ずる

町長 保健センターでの対応と医療機関との連携に努める。



沖野一雄議員

精神疾患をめぐる現状と課題及び今後の対策

沖野議員 精神疾患は統合失調症、認知症、依存症、うつ病、発達障害など様々な疾患があるが、その課題解決に向けた対応策をどう講じていく考えであるか。

町長 近年、精神疾患の受診者が増加しており、自立支援医療の受診者が全体で75人（与論徳洲会病院40人、徳之島病院20人、その他医療機関15人）となっている。

平成30年度の医療費を比較すると、精神及び行動障害疾患が心臓疾患やがんなどを抜いて第1位と

なっており、医療費総額で8200万円を超えている。その内、統合失調症が5570万円程、うつ病が1660万円程となっており、慢性化する傾向があることや、長期入院等が影響しているものと思われる。



保健センター

町の取組としては、保健センターによる患者宅への訪問や面接、電話等での相談対応を

行っている。平成30年度実績では29人を対象に301件の訪問、62人の方に90件の相談及び116件の電話相談を行っている。今後も各医療機関と連携しながら、見守り確認をしていく。

沖野議員 町内での精神科受診は、与論病院や徳之島病院の巡回診療に頼っており、患者やその家族等の求めるニーズ対応に不十分な実態があると思われる。

そこで、県内外の医療機関等に積極的に働きかけて、この巡回診療等の態勢の拡充を図ることが喫緊の課題と考えるが、町長はどのように認識しているか。

町長 与論徳洲会病院で毎月実施されている精神科外来診療の受診者が多く、毎回50人以上の患者が来られて、

ドクターやスタッフの負担が非常に重くなっており、病院としても、改善を図るため精神科医師の確保に努力している。

また、徳之島病院の方も、ドクター不足の中において、平成30年10月から看護師による訪問看護が始まっており、毎月10件以上の患者宅訪問を行い、患者の様々な相談に応じて、主治医に繋ぐことにより、患者の症状安定に寄与している。

介護保険制度改正に伴う介護支援対策

沖野議員 昨年の介護保険制度改正により、居宅介護支援事業所の管理者は令和3年4月1日以降「常勤専従の主任介護支援専門員（主任ケアマネー

）

ジャー）であることが定められた。この制度改正の影響によって今後、既存事業所の閉鎖や介護支援専門員の不足など、介護現場における混乱が懸念されているが、町長は、現状をどのように認識し、具体的対策をどう講じていく考えであるか。

町長 この事案については、今後の介護保険事業の推進に大きな足かせとなることが予想され、非常に憂慮している。

これは、全国的な問題として国も経過措置期間の延長等を検討中であるが、今のところ結論に至っていない。町としては、将来的なことも考慮して、今後

小中学校の要整備箇所の改善対策は

教育長 緊急度と重要度を基準に現場を確認しながら進める。



高田豊繁議員

各小中学校の要整備箇所の改善対策

高田議員 各小中学校における教育現場の要整備箇所については、これまで年次早期対策を求めているが、未着工箇所の対策はどのように考えているか。

教育長 学校施設の整備は、安全で安心して快適な教育環境を確保していくため取り組んでいる。安全性の確保が急がれる箇所や教育活動に支障をきたす箇所など、緊急度と重要度を基準に学校と協議して決めている。今後の施設整備についても、現場等を確認しながら進めていく。

教育委員会所管の事業

高田議員 教育委員会所管の事業については、社会体育部門より学校教育現場対策を優先的に考慮すべきと考えるが教育長の考えを伺いたい。

教育長 学校現場は、将来を担う子どもたちの学習や心身を磨くとても大切な場所であり、快適に安心して学習が深まる環境整備が必要不可欠である。よって、スピード感を持って、緊急性の高い順に学校教育に支障を来たさないよう対応していきたい。

認定こども園の統合整備計画の推進

高田議員 認定こども園は、早期に1こども園に統合整備すると伺っているが、ちまたでは3園を2園に統合するとの情報もある。

町長 はどのように考えているか。

町長 町としての方針が定まらない中で、噂だけが先行し保護者や地域の方々には不安を与えたものと思われる。

現状において、様々な面を考慮すると来年度からの2園体制は困難である。非常に厳しい状況ではあるが、現段階としては、こども園職員と協議を重ね3園運営の改善策を練りながら、早期の1園体制への移行に努める。

高田議員 既存の認定こども園は、「保育所型」となっている。近年の法整備や設置の動向は「幼保連携型」が多勢、主流となっていると思うが、今後のこども園の方向性はどのように考えているか。

町長 県の担当課へ教育・保育内容等の運営面における「保育所型」

及び「幼保連携型」のメリット・デメリットを確認したところ、公立の場合特に大きな違いは無いとのことである。今後も近隣市町村等の事例も参考にしながら、1園体制への移行のタイミングも考慮して検討していく。

高田議員 こども園の統合整備計画を遂行するに当たって町長は、直に現場の職員や保護者等の声を聞いて方向性を確立する必要があると思うが、どのように考えているか。



認定こども園

町長 先頃、職員と協議したが、有資格者が不足している中で3園を維持するのは、職員

の負担が大きく難しい。園内での合同クラスの実施や保育士及び補助員等の確保を図り、職員と連携し効果的な運営に努める。

高田議員 統合整備事業の遂行に当たっては、まず、経営面や財源面、従事人材面等を網羅したアウトソーシング型の基本構想をベースとした関係者説明会や検討会を経て、基本計画、用地選定、測量調査、用地取得、実施設計・建築確認申請、許認可申請、予算要求、工事中というスキームが想定されるがそれらの予定年次計画はどのようなか。

町長 様々な課題が山積しているが、できるだけ早く方向性を示し、安心して子育てに取り組める島づくりに努めていく。

新庁舎周辺の道路の安全対策は

町長 安全で円滑な避難が可能な対策を講じる。



町 俊策議員

新庁舎を中心とした道路の安全対策

町議員 新庁舎への緊急避難が生じた場合に備え、避難道路の通行標示や街灯設置、路傍の樹木の伐採等を行い、特に夜間における避難のための安全対策を講じる考えはないか。

町長 新庁舎建設の基
本方針は、災害に強く、
町民の安全・安心を守る
防災拠点となる庁舎
としている。このこと
から庁舎機能の強化を
図るべく、庁舎内の避
難スペースの確保、庁
舎敷地内の防火水槽や
消火栓の設置、消防車
両の配備、備蓄用倉庫
の整備を進めていると

ころである。
新庁舎周辺の整備に
おいては、県道から新
庁舎への町道窪舎1号
線の歩道付道路拡張整
備と本路線の無電柱化
や緊急時の避難場所と
して活用できる駐車場
の整備などを計画して
いる。



新庁舎付近の道路

新庁舎への緊急避難
が生じた場合に備え、
避難経路の安全性の確
保や夜間における円滑
な移動のための環境整
備は大変重要であるの
で、指摘のとおり新庁
舎を中心とした避難経
路の通行表示、夜間に
おける安全で円滑な避

各小学校校庭の樹木の管理

難が可能となるよう効
果的な外灯設置ととも
に避難道路の安全対策
に努めていきたい。

町議員 各小学校校庭
の樹木(ガジュマル)
茶花小3本、与論小3
本、那間小5本の整枝、
支柱、根まわりへの盛
砂、施肥等による管理
が必要と思われるが、
教育長は、学校の樹木
の管理についてどのよ
うに考えているか。

教育長 各小学校には
ガジュマルに限らず
様々な樹木があり、こ
れらの樹木の多くが植
えられてから数十年が
経過している。一見大
きく丈夫に見える樹木
だが、中には幹の内部
が腐朽している台風な
どの強風によって根か
ら折れてしまったもの
もある。
また、生育にともな



与論小学校のシンボル (ガジュ王)

って張った根が周辺の
構造物へ悪影響を及ぼ
している樹木もある。
今後の管理体制につい
ては、PTAや学校で
対処できる部分と教育
委員会でも対応する部
分、または専門職で対



那間小学校正門のガジュマル

登下校路の道路標示

応する部分を考慮し、
対応していきたい。

町議員 各小学校門周
辺の道路、交差点は、
横断歩道表示や車両の
一時停止線が常に明確
に表示されるよう点検
し、補修等の早めの対
応が必要だと思いが、
これらの安全対策につ
いてどのように考えて
いるか。

町長 指摘のとおり、
区画線や一時停止線等
の道路標示等について
明確になっていない箇
所が多数存在してい
る。
道路表示等は、公安
委員会が設置するも
の、道路管理者が設置
するものがあり、今後、
道路標識等含め関係機
関と点検協議を進めな
がら緊急性のあること
ろから順次補修を行い
交通の安心安全な対策
を講じていく。

地域おこし協力隊の活動成果や取組は 町長 特産品開発やふるさと留学制度を推進する。



林 敏治議員

地域おこし 協力隊の活動

林議員 現在、人口減少、少子高齢化が進行する本町において、島の人材を積極的に受け入れることで、地域の活力の維持強化を図るとともに、地域の活性化に資するため、地域おこし協力隊を本年度も新規に取り入れているが、これまでにどのような活動成果があり、今後どう取り組んでいく考えか。

町長 これまでの3年間の活動成果については多方面においてあるが、特に与論島の情報発信、特産品開発への支援、ふるさと納税の推進、関係人口の交流

促進、援農ボランティアの推進、英語・中国語を生かした外国人観光客の受け入れ支援など関係団体や町民と積極的に関わりながら本町の地域活性化の推進に取り組んできた。

本年度は、引き続き新たに2人の地域おこし協力隊を採用したが、前任のこれまでの取り組みを継続展開するとともに、特に本町の大きな課題となっている特産品の開発や人口減少対策の施策事業としてのふるさと留学制度などへの取り組みを積極的に推進していく。

魅力ある観光地づくり

林議員 本町が魅力ある観光地であるためには、大金久入口周辺の整備やコテージ村の民間委託など計画的な受入態勢の強化を行い、

南国特有のイメージアップを図る必要があると痛感するが、積極的に取り組む考えはないか。

町長 百合ヶ浜は本町に来島された観光客の多くが訪れる観光のメインスポットであり、大金久地区は、その玄関口となる重要な場所である。大金久地区は、入込客数の増加に伴い利用者も増加しているが、駐車場の不足や一部施設の老朽化などによる安全面や景観面の問題も指摘されている。現在、遊歩道の再整備や植栽を順次行っているが、今後は老朽化した施設等の再整備や撤去を行いつつ、各種補助事業を活用し観光拠点施設や関連施設、駐車場の整備について検討していく。

また、コテージについては、現在、町で管理運営を行っている



大金久入口周辺

が、今後はより利用者のニーズにあつた効果的な管理運営が行えるよう、大金久地区にある他の施設も含め民間事業者への指定管理委託を検討していく。

無電柱化の推進

林議員 近年、全国的に大型台風の襲来により電柱が倒れ、交通障害や停電が発生しており住民生活に甚大な被害をもたらしている。本町においては、新庁

舎建設に伴い、電線を地下埋設の予定である。この機会に台風常襲地帯である与論島全体を無電柱化推進モデル地区として定め、県や国に要望して積極的に取り組む考えはないか。

町長 現在、旧役場庁舎前から新庁舎までの区間について無電柱化の計画を進めているが、無電柱化については防災面のみならず景観面からも重要であり、これを機に新たな地域密着型公共事業として無電柱化事業を打ち出す必要があると考えている。

今後とも関係機関に働きかけを行いながら取り組んでいく。

給食センターの建て替え計画は

教育長 令和2年度に設計し3~4年度に建設する。



川村武俊議員

給食センターの運営

川村議員 給食センターは、老朽化が著しく、そろそろ建て替えの時期に来ていると思われるが、建て替えの計画は怎么样了。

教育長 今年度中に建設用地を確定し、来年度に基本設計・実施設計で骨子を決め、再来年度の令和3年度から4年度に建設工事を行う。令和5年度に新給食センターの運用開始を目指す計画である。

川村議員 近年、農薬汚染や遺伝子組み換え食品等に含まれる化学物質の影響が子供の発達障害やホルモン異常

の要因として警告されている。子どもの命をつむぐ食を提供するために、なるべく多くの島内産の安全な無農薬、有機栽培の食材を提供できるシステム作りを構築する考えはないか。

教育長 野菜生産者を対象とする月1回の定例会を実施し、翌月の納入可能な野菜を申告してもらっている。できるだけ島内産の野菜を計画的に生産し利用できるようなシステム作り努めたい。

川村議員 現在、給食で提供しているしし牛乳を普通牛乳に切り替える陳情書を平成24年に議会で採択しているが、今後、どのような取り扱いをする考えであるか。

教育長 普通牛乳（チルド牛乳）への切り替えを実施する場合、

その準備費用として1千万円程度、更に次年度からの維持管理費として、250万円程度が必要になる。新給食センター建設に併せ、合理的に判断していきたい。

川村議員 管理栄養士や調理師の人材育成において、こども園の給食も給食センターにおいて提供できるシステム作りを構築する考えはないか。

教育長 文部科学省の基準によると、認定こども園の0歳児から2歳児までの給食は、自園調理が原則で、3歳児以上の給食は、認定こども園外でできるとある。県内市町村の事例を調査研究し判断していきたい。

与論グスクの世界遺産登録

川村議員 沖縄県立博物館・美術館は、11月19日から2020年1月19日まで「琉球王国のグスク及び関連遺産群」世界遺産登録20周年を記念した特別展を開催する。新作模型と「与論グスク」の初公開もあり、琉球列島を代表する歴史遺産であるグスク全体を概括し発信する。今後、世界文化遺産登録に向けてどのような取組を考えているか。

教育長 与論城跡を国指定史跡にするため、今年度から文化庁の国庫補助を受けて事業を始めている。早く指定が受けられるよう事業を進めていく。

外来動物等の対策

川村議員 害虫のツマジロクサヨトウやミカンコミバエ等の予防対策はどのようになっているか。

町長 ほ場の巡回調査

で侵入警戒と早期防除に努めており、「さとうきび増産基金事業」を導入し、被害発生があった場合早急に対応できる体制を整える。



ツマジロクサヨトウ

川村議員 キジ、カラスの駆除対策はどのような状況になっているか。

町長 「与論町有害鳥獣被害防止計画」を昨年度に策定したことにより、駆除が通年行えるようになった。

「ヨロン島8K」の活用方策は

町長 様々な形で映像を発信し観光ブランド向上を図る。



大田英勝議員

アリの異常発生

大田議員 西区方面の畑で見慣れないアリの異常発生があり、周辺住民に懸念が広がっていると聞く。アリの発生は他地区にも広がっているとの情報もあり、早急に駆除に取り組みが必要があると思うが、町長の考えを伺いたい。

町長 指摘の蟻については、専門機関に写真データを送り調べた結果、正式名称がクロトゲアリで元々は沖繩本島以南の南西諸島に分布し、この蟻がいつ頃、どのような形でこの地区に入ってきたかは不明であり、聞き取り調査を含め現地調査を行い

適切に対応していく。

「ヨロン島8K」の活用

大田議員 「ヨロン島8K」は、今年3月に大阪で開催された日本初の国際観光映像祭の国内部門でグランプリを受賞し、満を持して臨んだポルトガルでの同映像祭フィルムロケーション部門で、52か国、219作品の中から見事2位に輝いた。このことは与論島の魅力が世界に認められたということであり、正に快挙である。今後「ヨロン島8K」を活用した観光振興が大いに期待されるが、具体的にどう取り組んでいくのか。

町長 引き続きユーザーグループ広告によるデジタルマーケティングを行い、未だ本映像を見ていない方々や本町に関心を持ちやすい客層に向けて発信し、認

知度及び観光地としてのブランド力向上に繋げ、これまでのユーザーグループ視聴者のデータを分析し、ターゲット等を行い、他事業をより一層効果の上がるものにする。



「ヨロン島8K」の映像

また、航空会社の機内モニターテレビや大手家電量販店等で使用されている8K機材のディスプレイに表示いただくよう関係機関に働きかけ、国内外で開催される映像祭等にも出品し、本町の魅力を発信していく。

児童・生徒の学力向上

大田議員 本町では、

児童・生徒の学力向上についてどのような認識を持ち、その向上のためにどのような取組をしているのか伺いたい。

教育長 与論町教育大綱を踏まえ、心身ともに調和のとれた人間の育成に努めることを基本方針に、児童生徒に「生きる力」(徳・知・体のバランスのとれた力)を育むことを目指しており、「授業改善」「自主学習の推進」「個別指導の充実」に取り組んでいる。

大田議員 先般、2019年度全国学力テストの結果が公表され、残念ながら鹿児島県は、小学校の国語が全国平均を上回ったものの、中学校は全教科で全国平均を下回った。そこで、本町の小・中学校の結果はどうだったのか伺いたい。

教育長 小学校は、今年是全国平均に届かず、過去5年間では、1回が全国平均以上、2回がほぼ全国並、2回が下回っていた。中学校は、5年間全国平均を上回っており、小学校の学力向上が課題である。

大田議員 全国学力テストでは、秋田、福井、石川などの各県が常に成績上位を占めている。ついては、これらの県がどのような取組をしているのか調査し、本町にも取り入れる考えはないか。

教育長 学力の高い県の取り組みを参考にしていきたいことは、大切なことだと認識している。本町では、先進地事例として、秋田県の「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)をしつかり実施している。

スポーツ関連施設の有効活用を図れ

教育長 スポーツ合宿や大会誘致活動を進める。



野口靖夫議員

スポーツ関連施設の有効活用施策と魅力ある観光地づくり

野口議員 スポーツ関連施設の有効的な活用施策を伺いたい。特にサッカー場は町民が等しく注目している施設であり、計画的に運用される事が望まれているか。

教育長 本町は、多目的運動広場を核とする既存の施設や自然環境資源を活かした「与論町スポーツアイランド」の確立を目指している。これは、スポーツを通して町民の健康の保持増進、生涯スポーツ活動の推進、競技の振興と競技力の向

上、スポーツ交流人口の拡大による地域振興を目指すものである。サッカー場を含めスポーツ関連施設については、町内各種団体への利用促進を図りながら、島外からのスポーツ合宿や大会の誘致活動も進めている。



多目的運動広場「ゆいランド」

また、観光とスポーツ・文化との融合ということで、来年度の鹿児島国体のデモンストラーションスポーツとして、多目的運動広場を拠点に「史跡巡りウォーキング」を計画している。

今後もスポーツ文化ツーリズムを推進するために観光協会やスポーツクラブ等関係機関と連携しながら進めて行きたい。

野口議員 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録は、本町観光振興のチャンスであるが、本町の観光振興の基本構想を伺いたい。

町長 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録が実現すれば、世界的に注目を集めることは間違いなく、本町への誘客を図る絶好の機会と認識している。

これまでも、世界自然遺産登録を見据えて、沖縄北部地域や奄美群島と連携し、広域観光ルート形成に向けて旅行商品の造成や広域観光イベント等のプロモーションを実施し

てきた。併せて、今年度から、奄美大島・徳之島・沖縄の主要観光施設や港等を利用して来島される旅行客を対象にした本町で使用できる地域商品券の配布、大量送客が可能なフェリーの利用促進を図るための沖縄北部地域を経由した観光動画の配信などの効果的な誘客にも取り組んでいる。

今後は、沖縄と奄美群島の関係機関及び航空・船会社や旅行会社等との連携をさらに強化し、沖縄と奄美の両地域を結ぶ地点として本町の魅力を発信し、広域観光ルートの形成及び両地域からの誘客促進に努めていく。

また、誘客戦略と併せて増客を見越した受け入れ態勢を整備することが重要であり、宿泊施設の誘致や老朽化した宿泊施設及び観光施設等の改修整備にも積

極的に取り組む。

野口議員 植栽事業について、今日まで事あるごとに議論してきたところであるが、平成7年に策定された、与論町緑化基本計画の実施状況の推移について伺いたい。

町長 町民憲章に謳われている、花と緑の美しい町づくりをめざして、公共施設や沿道に花木等を植栽することで「南国ヨロン」のイメージアップを図るため、各学校、自治公民館、育成会その他各種団体等の協力の下、着実に植栽事業が進んでいる。町としても、ヨロンマラソンのコース沿いをはじめ、地権者の理解と協力のもとマニラヤシ等南国情緒が実感出来る植栽や、緑化推進員に業務委託し年間を通して植栽の管理に努めている。

わたしもひとこと



古川 誠二 氏

よもぎ医者のしげやき

プロフィール
○氏名 古川 誠二
○住所 与論町那間
○職業 パナウル診療所長

私は常々、人の人格形成には社会的環境要因が大きく関与していると考えている。私の場合は、二つの大きな要因がある。一つは私の祖父の存在である。一番印象に残った教えは吉野川橋の話である。まだ荷馬車しかない昭和初期に、当時の

県知事は将来車社会になることを見越して2車線の大きな橋を架けた。当然人々からは税金の無駄使いだと非難罵々だった。その後予想通り車が社会が到来し、今ではその橋では交通渋滞をおこし、新しい橋が2本も作られている。為政者たる者の時代の先を見越すことの大事さとそれを実行するときの困難に打ち勝つ信念の大切さを学んだ。

もう一つは空海こと弘法大師の聖地に生れたことである。空海の仕事が地域の自立支援だったという事に社会人となって初めて気が付いた。与論に来てから聞いた話。筑後川流域の貧しい村を訪れた空海が、その地方の川にエツという魚を放流し、それを売ることにより生計を立てることを指導した。経済的な援助ではなく、自分たちの手で生きていく手段を教えるというまさに現在の自立支援の原型である。知人のペシャワールで活躍していた中村哲先生も、最初は病院の充実に力を注いでいたが、その後は地域の為に井戸を掘り、農作物を収穫するための灌漑事業に力を注いでいた。私もそれに近いまねごとをしようとしたことがある。タラソテラピーという、海の資源を利用して病気の予防や治療をするというもので地域おこしを図った。離島ではなかなか産業を興すことが難しく、豊かな海の資源を利用してタラソテラピーで観光と雇用を促進させようと考えた。



四国霊場

離島医療を人生の目標に掲げて与論島に赴任したが、医療は地域文化と一体であるという事を教えられた。特に終末期における死の受容に関しては、一人一人が皆人生の師であった。死の床で、ありがとうという言葉を繰り返す方、へりで搬送中にこつそり先生もう島には帰れないと思う、お世話になりましたと告げた方。死ぬ前に先生に話がある。実は家の前の道路が狭いのは、自分が大切な先祖の土地を守ってきたためで、死ぬ前に町道として使ってもらおうと寄付をしたよ、という。今でもその道を通るたびにその方のことを思い出す。

さて、与論には誠の心という素晴らしい人生訓がある。人は共生社会を作る生き物であるから、その中で自分の役割を見つけていく。誠の心が育つのは、自分は社会に必要とされる人間であると思える時ではなからうか。観光地としての与論の誠の心はやはりおもてなしであろう。今年、小学校の同窓生9人が遙々私を訪ねて来てくれた。お礼の手紙のなかに、与論の方が「友達の友達は皆友達」という態度で歓迎してくれたと書いてあった。まさにこれが与論の誠の心であろう。ただし、与論献奉ではおもてなしが度を過ぎないようをお願いしたい。

最後にこの度投稿の機会を与えて頂いた与論町議会、並びに私を30年余りの長きにわたって受け入れて下さった与論の人々に心より感謝申し上げます。

《編集後記》

全国の自治体などをつくる地域活性化センターが昨年末、魅力発信に取り組み自治体を表彰する「地域プロモーション大賞」を発表した。今回初めて設けられた動画部門で、全国156作品の中から本町出品の動画が「地域活性化センター賞」に輝いた。ポルトガルでの受賞に続く快挙であり、本町の動画制作能力の高さが証明されたのは誠に喜ばしい。

令和初めての正月が穏やかに幕を開けた。新年早々新庁舎の落成式典・祝賀会があり、本年は新庁舎での業務開始となった。新時代を迎えた与論町の発展に期待したい。

ここに第134号を発行できたことを、町民及び関係各位に感謝申し上げます。(天田)